

2011年06月09日 00:12 カテゴリ

独創性豊かで優れたテクニックが生まれるのは・・・

今日は休業日。昼にTVをスイッチオン。「高い塔から水平線を見渡せ」「共通の高い理想があるからプロジェクトは団結していく」だったような・・・言葉が飛び込んできた。NHK Eテレ「仕事学」の番組の最後の部分であった。川口淳一郎教授の名言だ。

その後パソコンで調べてみた。

あるサイトの中で川口教授のことが書かれていた。

「背伸びするクセをつけよう」最近の日本人ときたら、とにかく安定志向に走りがちで、冒険や挑戦をしない。とりわけ“草食系”と揶揄される若者たちにはその傾向が強い。そうした「守りの姿勢」でいるかぎり、いつまでたっても斬新なアイデアや大きな成果は得られない、というのが持論。 —中略— 川口さんらは幾多の困難を乗り越え、「絵空事」とも思われたプロジェクトを成功させてしまう。“背伸び”したからこそ、高いモチベーションで努力を重ねることができたのである。

夜には昼の続編が放映され「学習方法」について語られていた。この中でも、「研究者は教科書、論文は読むな。オリジナリティの発見がない。学んだことからクリエイティブなことは出てこない。自分で考えてやってみる事が大事。3ヶ月くらいは自分の頭で考えよ。初めから安易に答えを求めるな」「見えているものはみな過去のものだから、やっても新しいものは生まれてこない。」「完璧なものを目指すのではない、60点を100%の確率で取りに行く」「一流とはあらゆる事を気づいているので、対策が打ってあって何も起きないのが超一流。リスクが起こるのは二流」川口教授の名言は尽きない。

西本先生の教授法や学習方法は川口教授と共通点が多い。「自信が出来てからからではなく、軌道修正しながら知識を上乗せしていく学習法」「質問が無いのは学習していないこと」「テキストや、既成の知識を疑え、自分で考え納得せよ」などをたたき込まれるのだ。オリジナリティ豊かで優れた西本先生の姿勢矯正テクニックはこのように川口教授と共通した斬新な発想から生み出されたのだ。

いつも思っているのだが西本先生という素晴らしい師匠に師事することができ本当に良かったと今日もまた思った。よし一流の姿勢矯正士目指して明日も頑張るぞ！

■川口淳一郎 かわぐち・じゅんいちろう 宇宙航空研究開発機構（JAXA）教授、「はやぶさ」プロジェクトマネージャー。1955年9月24日、青森県生まれ、55歳。京都大学工学部卒、東京大学大学院博士課程修了。ハレー彗星探査機「さきがけ」「すいせい」、火星探査機「のぞみ」などのミッションに携わる。昨年11月、約7年間の飛行を続けた「はやぶさ」が小惑星イトカワから世界で初めて約1500個の微粒子を持ち帰ることを成功させた

2013年07月12日 18:58

臨床レポート

50肩のその後(やはり良い状態が続く!)

姿勢矯正士の辻内です。前回ブログで紹介した患者さんが、今日来院されました。50肩の調子をお聞きすると「良くなっている」とのこと。先週私は患者さんに「痛みさえ取れる状態であれば再発はほとんどないはずですよ」と説明してあった通りであった。

1週間前の状態には戻ってはいなかったことを画像診断でも確認できた。

しかしもう少しだけかすかに違和感が残っているような感じがするとのこと。それならばと今日はさらに精度を上げて治療に取り組んだ結果すっかり違和感も痛みもとることができた。

帰り際に「先生の施術は他と違って、そこだというポイントに確実にアプローチしてくれる。また、筋肉の繋がりが感じるようなやり方で凄い」とおっしゃってくれた。

良かったと実感。

超一流の施術家になるためにはその時だけの結果に満足するのではなく経過観察していくことはもちろんだが姿勢矯正の効果や痛み再発の有無などをQOL調査などを行い確かめることも必要だろうと思っている。